

		共通項目	保護者と認識のズレがあったと思うもの			職員同士に認識のズレがあると思うもの			
		チェック項目	事業者アンケート（12名中12名回答） 100%			保護者アンケート（34名中26名回答） 74%			
			はい12名中	どちらともいえない	いいえ	はい26名中	どちらともいえない	いいえ	
環境・ 体制 整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	8	4		18	7	1	①
	2	職員の配置数は適切であるか	10	2		26			②
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか	2	8		16	9	1	③
業務 改善	4	業務改善を進めるための PDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか	8	4					
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	9	3					
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	10	2					
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	9	3					
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	12						
適切 な 支 援 の 提 供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	9	3		26			④
	10	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	8	4					
	11	活動プログラムの立案をチームで行っているか	5	7					
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	11	1		26			⑤
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	9	2	1				
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか	10	2					
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	12						
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	12						
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	12						
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	7	5					
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っているか	6	6					
	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子供の状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	8	4					
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか	10	2					
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか	3	6	3				

関係機関や保護者との連携	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	5	7					
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	6	5	1				
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	8	4					
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	1	5	6	3	13	10	⑥
	27	(地域自立支援) 協議会等へ積極的に参加しているか	3	6					
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	10	2		26			⑧
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	4	6	2				
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	6	6		26			⑦
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	9	3		26			⑨
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	6	4	2	13	11	2	⑩
非常時の対応	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	9	3		19	7		⑪
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	12			25	1		⑬
	35	個人情報に十分注意しているか	11	1		26			⑭
	36	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	12			25	1		⑫
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	7	1	4				
非常時の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	12			26			⑮
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	11	1		23	3		⑯
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	12						
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	8	4					
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	9	3					
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	12						
満足度		子どもは通所を楽しみにしているか				26			⑰
		事業所の支援に満足しているか				26			⑱

2018年度の改善目標に対する2019年度の改善結果

	保護者との認識のズレがあったと思われるもの	課題に対する対応策（改善目標）	2019年度の改善目標に対する改善結果
1	① 利用者定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	大体の職員は「はい」と答えたが、保護者は半数が「はい」と答えたにすぎなかった。保護者より、「利用者が多い日は、どうしても狭さを感じてしまうことが多いです。」とのコメントがあった。活動の内容を工夫しながら、安全に配慮していきたい。	2019年度4月より新しい場所で活動開始。手狭ではあるが、ソファやマット等を購入したことにより、利用者が分散してスペースを利用できるようになった。
	② 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	「はい」と答えた職員はいなかったが、保護者の半数は、「はい」と答えていた。保護者会はないが、バザー等保護者同士がかかわりを持てる機会は設けているので、連携を支援していると考えて下さっているようである。今後も保護者の負担が少ない形で、ふれあえる場を設けていきたい。	年に1度のバザー開催や、40周年のイベントを保護者と共に企画、運営し、保護者同士と職員の交流の場を設けた。

	職員同士に認識のズレがあったと思われるもの	課題に対する対応策（改善目標）	2019年度の改善目標に対する改善結果
2	③ 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか	現在の施設は2階で階段のみだが、新年度よりエレベーターつきの施設に移転することで改善されると思われる。また、室内に段差を作らないよう整備する等、安全面に配慮しながら工夫していきたい。	2019年度4月より、7階建てマンションの2階で活動開始。エレベーターが使用可能になった。部屋の構造上仕方がないが、トイレに入るところに段差がある。段差がはっきりするよう上の段と下の段を色分けしたり、足元が不安定な利用者については必ず職員が付き添って対応した。

	今後の課題について	課題に対する対応策（改善目標）	2019年度の改善目標に対する改善結果
3	4月からの新施設の限られたスペースの中で、様々な年齢・個性の子ども一人ひとりにのびのびと充実した時間を提供していけるよう、環境整備が課題となる	活動スペースを活動的に過ごせるエリアとゆっくりリラックスできるエリア等に分ける等有効な環境整備をしていく。また、近隣公園や散歩、買い物学習等の施設外の社会資源を有効に活用すると同時に、職員の支援スキルを上げる等、人的環境整備にも力を入れ、安全でバリエーション豊かな時間を提供していく。	<ul style="list-style-type: none"> ・ソファやマット等を購入したことにより、利用者がリラックスしてスペースを利用できるようになった。 ・近隣の商店に買い物学習に行き、施設外での活動をすることができた。 ・PCセキュリティ、障害者虐待、権利擁護、感覚統合についての研修を行い職員のスキルアップにつなげることができた。
	4月から新たな場所での活動になるため、地域の方への障害理解の啓発が課題となる	近隣の公園、商店、イベント等に積極的に出かけ、活動への理解者を増やしていく	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣にある公園や商店街のお祭りイベント等に出掛けたり、近隣の商店でおやつやクッキングの材料等、買い物をする等、積極的に外へ出かける機会を設けることができた。

▶ 2019年度総合結果

	保護者との認識のズレがあったと思われるもの	課題に対する対応策（改善目標）	2020年度の改善目標に対する改善結果
1	③ 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	<ul style="list-style-type: none"> ・困ったことが特にないということで、どちらともいえないにチェックをつけている方が多かった。 ○対応できている（工夫している）点 ・相談契約時に相談・苦情窓口の説明をし、どんな些細なことでも相談してくださいとインフォメーションしている。 ○課題に対する対応策 ・年度切り替え時に行政やじのこの相談・苦情窓口のお知らせを作成し周知する。 	※今後の取り組みを経てから、結果を公表します。

	職員同士に認識のズレがあったと思われるもの	課題に対する対応策（改善目標）	2020年度の改善目標に対する改善結果
2	③ 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか	<ul style="list-style-type: none"> ・部屋の構造上、トイレに入る前に段差がある。 ○対応できている(工夫している)点 ・段差がはっきりするよう上の段と下の段を色分けしている。 ・足元が不安定な利用者については必ず職員が付き添って対応している。 ・見学時に緊急時の避難のことを考えて、自力で階段を昇り降りできるか、確認を取っている。 ○課題に対する対応策 ・安心して過ごせるよう、環境整備を行う。 ・人員配置等により、より安全に配慮する。 	※今後の取り組みを経てから、結果を公表します。

<p>⑩ 活動プログラムの立案をチームで行っているか</p>	<p>・プログラム会議という形では行っていないが、職員が分担して企画している。 ○対応できている(工夫している)点 ・リーダー職員がプログラム内容を立案し相談、助言を受け、工夫しながら活動プログラムを決めている。 ○課題に対する対応策 ・子どもたちが興味を持てるものや、保護者の要望、普段の振り返りで出た意見を活かしながら、それぞれが分担してチームとして企画する。</p>	<p>※今後の取り組みを経てから、結果を公表します。</p>
--------------------------------	--	--------------------------------

	今後の課題について	課題に対する対応策（改善目標）	2020年度の改善目標に対する改善結果
3	<p>「どちらともいえない」が多い項目に関しては、非常勤職員がわからないため、「どちらともいえない」と答えたと思われる。ガイドライン等は常時閲覧等として設置しているが、全体に周知し、疑問に思うことに関しては、随時丁寧に伝えていきたい。</p>	<p>・マニュアル、手順書類をいつでも活用できるよう整理・ファイル化したり、掲示する等して全体に周知し、随時丁寧に伝えていく。</p>	<p>※今後の取り組みを経てから、結果を公表します。</p>
	<p>今年度、駅近くに移転したところで、新たな場所で活動することになった。地域情報を得ながら無理のない範囲で交流や連携を進め、地域に根付いた活動をしていきたい。</p>	<p>・商店街振興組合や自治会等地域の社会福祉協議会に協力を得ながら情報収集する。無理のない範囲で交流を深めていく。</p>	<p>※今後の取り組みを経てから、結果を公表します。</p>